Keyword 奈多　阿蘇4火砕流　九州　草千里ヶ浜

濱から濱へ

芸術研究科 造形表現専攻
写真・映像領域 博士前期課程
2024年3月修了

木下史雄

主査 百瀬俊哉　**副査** 大日方欣一　佐藤慈

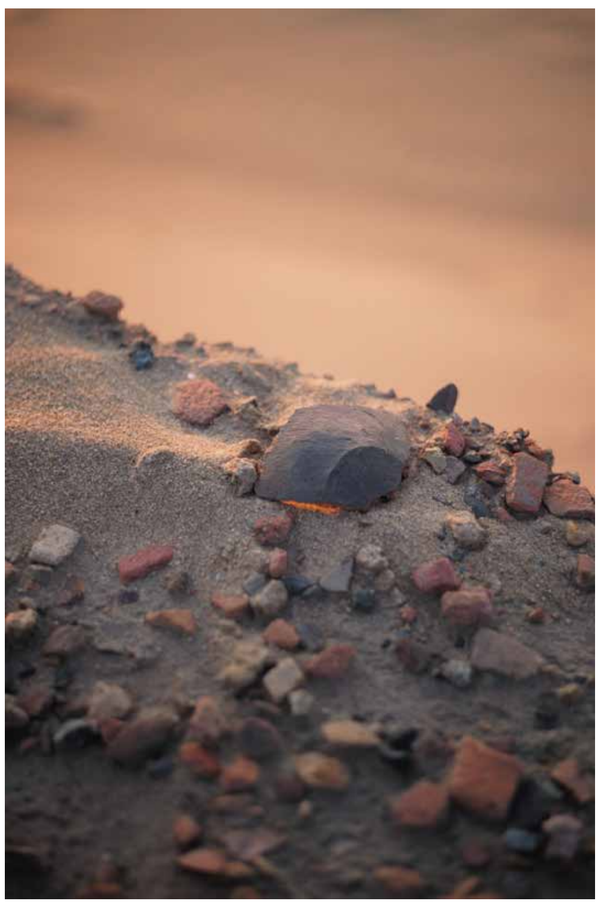
研究背景

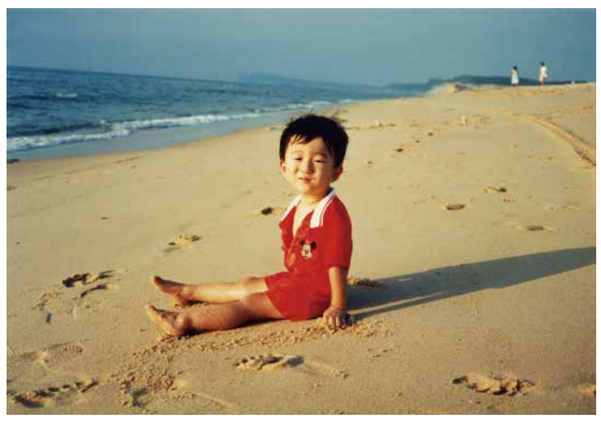
地元の福岡市東区奈多海岸を歩いていると古い陶器片を見つけた。調べるとその場所は、今から約1900年前の弥生時代集落跡「奈多遺跡」であることが分かった。海岸には今から約9万年前に噴火した熊本阿蘇山、阿蘇4火砕流を含む火山灰地層もあることが分かった。自分のルーツかもしれない遺跡と熊本阿蘇、大分、九州から海を越え火砕流が到達した山口、四国の愛媛伊方までを撮影した。

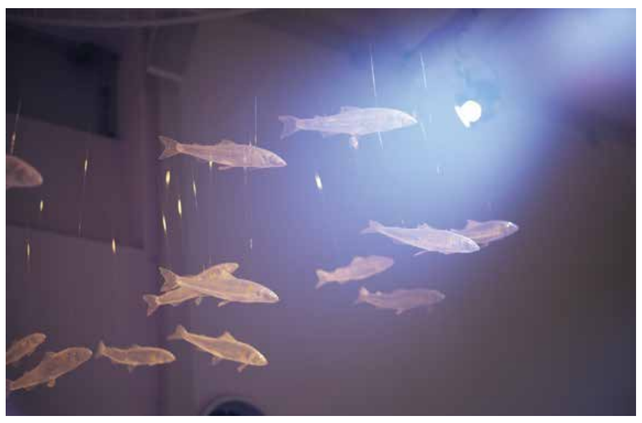
研究目的

研究では地元、福岡市東区玄界灘に面する奈多海岸にある弥生時代集落跡「奈多遺跡」と熊本阿蘇山、阿蘇4火砕流の到達範囲の撮影を行なった。九州産業大学芸術学部写真専攻の卒業制作から「濱から濱へ」の研究テーマで撮影を継続している。大学院でも日々変化する現代の奈多遺跡と広範囲の阿蘇4火砕流到達範囲について研究を継続するために撮影した。

研究概要







成果・まとめ

研究ではとても多くの発見があった。奈多遺跡と自分の関係を調べるために実家の古いアルバムから写真を探した。すると私が2歳の時に奈多遺跡の近くの海岸で砂遊びをしていた写真があった。写真には両親、祖母、親戚の姿もあった。知らない過去を知ることができた。約9万年前に噴火した阿蘇山火砕流の痕跡は想像がつかないほど昔の自然災害の痕跡だ。その痕跡は、現在豊かな自然と現代の土台になっている。自分のルーツかもしれない奈多遺跡の先人、自然や様々なことに敬意を持ち学び、これからも撮影を継続する。

指導教員コメント

奈多遺跡に今から約9万年前に噴火したとされる熊本阿蘇火砕流の地層があることを知り、奈多遺跡と九州から海を越えて山口、四国まで到達したとされる火砕流到達範囲を撮影するという方法に辿り着いた。作者の出身地である奈多から始まる風景を写真によって視覚化していくことで、多角的な表現が芽生え、人々の日常にかかわる場所などを撮影している力作である。撮影を通して自分の経験と感想を整理し、自身の今を模索する手段として写真を活用している。

百瀬俊哉